



携帯電話会社の機種代0円サービスや端末の種類の増加などにより、H24～H26の間にスマートフォンと携帯電話の所有率が逆転しました

今年2月、文部科学省が発表した平成27年度に確認されたいじめの件数は、前年度から約4万件増え、過去最多の22万5132件に上りました。いじめの内容はどの学年も「冷やかし・悪口を言われる」と「仲間はずれや集団による無視」で約8割を占め、学年別に見ると中学1年生が最も多く、その件数は3万1197件です。

いじめにより自ら命を絶った生徒の問題が公表されてから、全国各地で深刻ないじめの実態が次々と浮かび上がっています。その中でスマートフォンを使うなど、一見いじめだと分かりにくい「新しいいじめ」が

いじめの認知件数が
過去最多に

目次

02 特集 私たちの行動宣言

12 ペットは責任を持って
飼いましょう

14 秋まつり特集①

16 市政 PICK-UP

18 すまいる

19 まちの話題

22 健康教室・食推さんの食
べてみんなおいしいけえ

23 暮らしの情報

32 おでかけ情報

34 みんなの写真館・
市長夢日記

耳の不自由な人など電話で問い合わせができない人はFAX②3337

表紙の説明



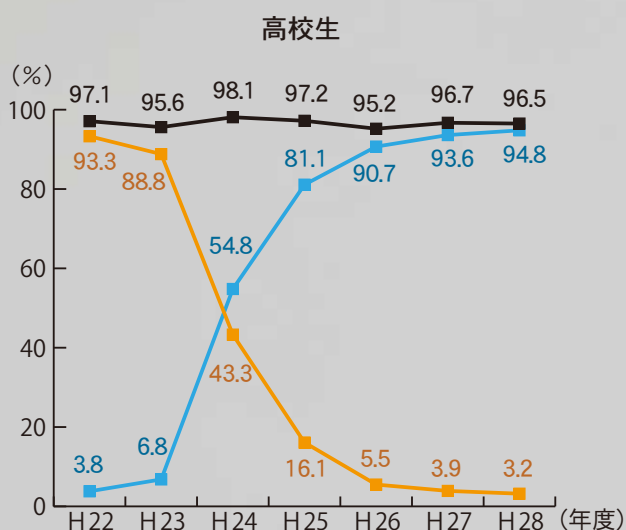
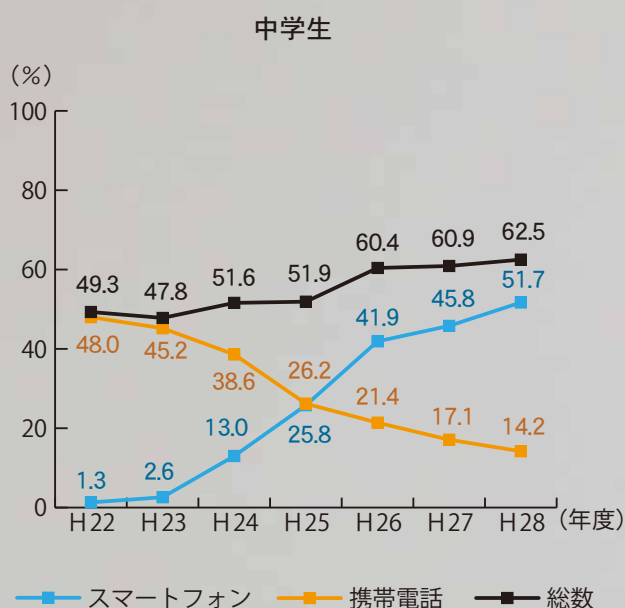
私たちの行動宣言

10月は「いじめ防止・根絶強調月間」です。いじめをなくすために、私たちができることは何でしょうか。

表紙は、8月23日に開催された「岩国地域いじめ問題子どもサミット」に参加した中学校の生徒たちです。
(詳細記事は6・7ページ)

中学生・高校生のスマートフォン・携帯電話の所有率

平成28年度 青少年のインターネット利用環境実態調査より



※ H26から回答・調査方法を変更したため、H25以前の調査結果と直接比較できません

※ H26～H28は複数回答のため、スマートフォンと携帯電話の所有率は総数と一致しません

特集 私たちの行動宣言

明らかになってきました。

急速に普及したSNS

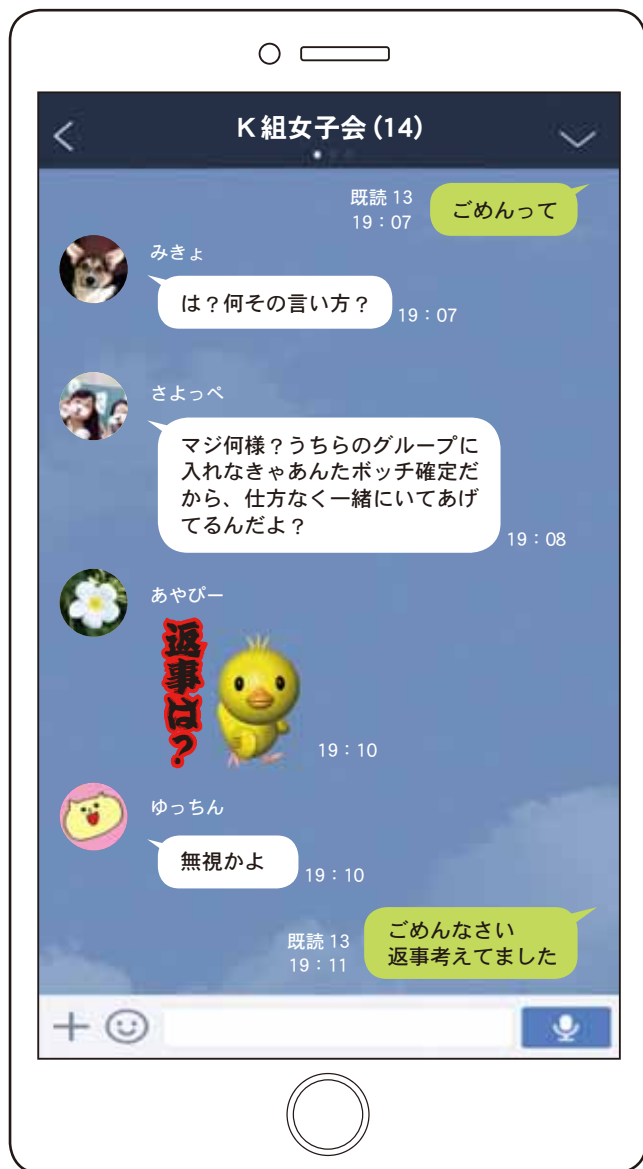
ここ数年で、18歳未満のスマートフォンの所有率は急増しており、普段のコミュニケーションや連絡の手段としてSNS（ソーシャルネットワークサービス）を使用することが多くなってきました。SNSとは、インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのことです。

特にLINEというアプリは、メールより簡単な操作でメッセージや画像のやりとりができる上、複数人のグループでリアルタイムにトークができるという利便性から、平成23年6月のサービス開始以来利用者が増え続け、現在ユーザー数は7千万人以上に上ります。

子供たちの間でもLINEの利用率が高くなっており、普段から短いメッセージでやりとりする中で、文字だけでは意図が伝わりきらず、小さなきっかけから大きなトラブルやいじめに発展するケースもあります。いじめを解決する役割は学校だけでなく、私たちにもできることが、きつとあるはずです。

分かりにくいのはなぜ？

最近のいじめの事例を紹介します



▲LINEいじめの例

SNSいじめ

会話のやりとりが見えないから

SNSいじめは、LINEのグループ（複数人で閲覧できるトーク画面）で起こりやすく、ささいなことからいじめに発展することもあります。

小さな画面で起こるいじめなので、家族は中身を見るまで実際に何が起きているかを把握できません。



●LINEはずし

グループのメンバーから勝手に外されていたり、自分以外のメンバーで新たにグループトークを作られていたりして、仲間外れにされることがあります。

●スタンプ

トーク画面に貼り付けられる画像で、LINEを象徴する人気機能です。イラストや言葉の種類が豊富で、主に相手への反応やメッセージの代わりに使われます。スタンプ画像はその時の気分で簡単に貼り付けられるので、相手を励ますこともあれば、傷つけることもあります。



Interview

加害者側にいじめの意識がなく、本人も周りに言いにくい

現在のいじめは、特定の人に対して意図的に陰湿ないじめを行うというよりも「友達同士のやりとりの中で、ちょっとしたきっかけから誤解が生じ、周りに流されて複数で無視をしたりからかったりする」というケースが多いです。

いじめる人数の方が多くことから、

いじめる側の子供は自分たちの行為がいじめだと認識しにくく、それがより深刻なものにしてしまいます。

嫌な思いをしている本人も「親や先生に心配を掛けたくない」「いじめられていると思われるのが恥ずかしい」という意識が働くため、相談しづらく、表面化しにくいのです。



教育委員会 青少年課
指導班長 植田 明男

いじり・からかい



ノリの悪い方が悪者になるから

からかった人は「ただの冗談」といじめの意識がなく、からかわれた人も「嫌だけど、その場の空気合わせた方が楽だから」と順応してしまいます。

無視



いじめのターゲットが変わるから

仲良しグループの中で、突然いじめの対象になることがあります。途中で被害者・加害者の立場が変わることもあり、関係性が把握しにくくなっています。

一人で悩まず、相談してください

岩国市で最も報告されるいじめは、からかいなど言葉によるものです。今年3月に文部科学省の方針が改定され「ケンカやふざけ合いもいじめの対象として対処すること」「加害者の謝罪だけでいじめが解決したと判断しないこと」などが定められました。

大切なのは、今つらい思いをしている子供の気持ちを受け止め、安心させてあげることです。「何とかしたい、でもどうすればいいかわからない」と悩むときは、私たちに話してください。きっと、力になれるはずです。



※「いじめの防止等のための基本的な方針」の改定および「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」の策定

ヤングテレホン

☎0120-22-7830 (8:30~17:15)

※携帯電話からは☎43-0900

小学生・中学生・高校生およびその保護者からの相談を受け付けています。

教育委員会 青少年課

☎43-0901 (8:30~17:15)

小学生・中学生およびその保護者からの相談を受け付けています。

主な業務

- 青少年の健全育成・非行防止活動の推進
- いじめ問題などの実態把握と支援



空気を変えよう。

子供たち自身が自らの意志でいじめ問題に取り組んでいくことが、いじめの未然防止、早期解決につながります。



岩国地域いじめ問題 子どもサミット

8月23日、岩国市・和木町の全中学校（17校）の生徒たちが教育センターに集まり、いじめ防止の取り組みやSNSいじめについて話し合いました。

1 ポスターセッション

各校のいじめ防止の取り組みについて、ポスターを使いプレゼンテーションする

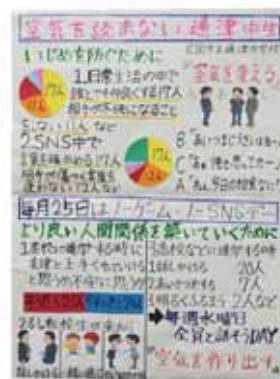
発表を見て「自分の学校にも取り入れたい」という意見が多く寄せられました



平田中学校は、団結力を向上させるため各学年に分かれて校歌を練習し、全校生徒でしっかり歌う取り組みを紹介しました

通津中学校

友達同士の会話で悪口が出たら、わざと話題を変えるなど「空気を読めではなく、空気を読まない」ように行動する取り組みを行っています



高森みどり中学校

許されるいじりはあるか、というアンケートを通して「いじるのではなく素直に褒め合う」などの意識付けを行いました



2 グループ協議

SNS いじめの映像を視聴して「SNSによるいじめの問題にどう立ち向かうか」を協議し、各グループの「行動宣言」を発表する

SNSを利用する上で、普段から気を付けること

- 誰かがフォローする空気を
● 自分の意志を持ち、周りに流されない
- 1人を一気に責めない
● 直接話したときにか
● 悪い雰囲気になったら
しいと思う表現は控える
● 勇気を出して止める

各グループの行動宣言（一部）

- 自分の意志をしっかりとってSNSを利用します
- 相手を思いやる気持ちを持ってSNSを利用します
- 相手を傷つけないように言葉遣いに気を付け、時には助けられるような思いやりの心を持ってSNSを利用します

3 行動宣言（決意表明）

各グループの行動宣言を3つにまとめる

通津中学校
岩国中学校
麻里布中学校
川下中学校
灘中学校
東中学校
平田中学校
岩国西中学校
由宇中学校
玖珂中学校
本郷中学校
周東中学校
錦中学校
美和中学校
和木中学校
高森みどり中学校
高水中学校

行動宣言

SNS いじめをなくしていくために、私たちは、

- 一、お互いに思いやりを持ってSNSを利用します
- 一、周りに流されない強い意志を持ってSNSを利用します
- 一、変化に気付き、助け合いながらSNSを利用します



8月31日、代表として教育長に行動宣言を報告しました

Interview

いつもと違う空気になったら

SNS いじめについての映像を見て、「こんないじめは絶対なくさないといけない」と思いました。

今回のサミットで学んだことを他の生徒に伝え、もし学校やLINEのやりとりで「あれ？」と思う流れを感じたら、その空気を変えるような行動をします。



梅川輝藍くん
(錦中学校)

大人たちの行動宣言

子供たちの「今」を支える大人たちが、いじめをなくすためにできることとは。

子供の気持ちに寄り添い、友達と仲良く過ごす方法を一緒に考えます

専門職



臨床心理士
岩国地域スクールカウンセラー
原田 梨沙さん

スクールカウンセラーとして、週1回〜月1回の頻度で学校を訪問しています。学校に毎日いないことで外部性を保ち、第三者として学校にしっかりと発言できることが強みです。

子供たちにとって友達は大きな存在です。トラブルをなくすために当事者間の距離を置くこともあります。が、子供自身が「その友達と仲直りしてまた一緒に遊びたい」という気持ちを持っている場合が多いです。

最近いじめに対するサポート体制の動きは早くなっていますが、実際の行動は本人の気持ちのペースで行うことが大切です。

気持ちの整理が着く前に

周りの大人が早く行動しすぎると「大事になって今後その子との関係が気まづくなる」という恐れから、相談しづらくなるケースもあります。まずは本人に寄り添い、友達にどう伝えるべきかを一緒に考えることを大切にしています。

また道徳の授業で、子供たちに「嫌なことがあったときに自分の気持ちを上手に表現する方法」や「いじめや良くない誘いを上手に断る方法」などを教えています。実習では、相手への言い方について子供同士がお手本にすることもあつたので、友達から学び、いろんなコミュニケーションの方法を知ってほしいです。

地域



あったかネット
(川下中学校区地域協育ネット)
コーディネーター
渡辺 博明さん

子供たちを見守る「地域目」を増やし、小さな変化に気付きます

地域協育ネットの取り組みとして、学校の先生や保護者、地域の人たちと一緒に、地域安全マップ作りや合同避難訓練などを行っています。

大人も子供も、地域活動がきっかけで「実はご近所さんなんですね」と相手を知り、お互いの信頼関係を構築することです。子供たちを見守る「地域目」ができます。子供たちの普段の様子を知ること、小さな変化に気付くやすくなり、その度に「最近どう？」などと声を掛けています。

まだ地域に関わっていない子も、外で誰かとすれ違ふときにたたくさんの「地域目」があれば、関わるきっかけが増えます。その目を増やす取り組みを広げていきたいです。

●地域協育ネット

子供たちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援するために、学校・保護者・地域が連携協力する仕組み

保護者



岩国市PTA連合会
会長 中尾 正浩さん

普段の会話を積極的に重ね、見えない いじめに気付く家庭環境を作ります

P T Aの関係で学校によく行きますが、どの生徒もすれ違ったときに元氣よくあいさつをしてくれて、学校にいてもなかなかいいイメージが結び付かないことがあります。

見えないいじめに気付くためには、家庭での信頼関係を構築することが大切です。親にとってわが子はいつまでも子供だと思いが、思春期は大人になろうとしている時期です。親として言うべきとき以外は、本人の意志を尊重するようにしています。

情報が手に入りやすくなり、子供自身の考え方は昔より進んでいると感じますが、人と直接交流する機会

- P T A連合会の取り組み
- ・各学校のP T Aからの要望書を取りまとめ、市と教育委員会へ提出
- ・P T A活動を充実させるための各種研修会の企画・開催
- ・山口県や中国ブロックの研修会への参加など

が減った分、家庭でストレスが発散できないと、学校など限られた場所に、はけ口が向きやすくなります。

核家族化や共働きなどによって人間関係が固定化しやすい今こそ、地域と関わることも大切だと思います。

会話と笑いはストレス解消のキーワードです。家では積極的に会話をし、自分の話をしたり「今日どうだった？」と子供に聞いたりしていると、子供の方からその日の出来事などを話してくれるようになります。

このやりとりを積み重ねることで、子供のS O Sや友達の状況を普段の会話から引き出す環境を作っていきます。

教育環境の変化による「中一ギャップ」を解消し、 豊かな心を育む小中一貫教育を進めます

行政



教育委員会
教育長 佐倉 弘之甫

中学校に入ってから授業内容の専門化や部活動の開始などで環境が大きく変わり、不登校やいじめ問題につながっていく「中一ギャップ」などの課題に対応するため、市では新たな学校制度として、平成32年度から「小中一貫教育」を始めます。

中学校の先生が小学校で教えたり、小・中学校間で頻繁に情報を交換したりすることで、中学校への接続を円滑化し、児童生徒が安心できる環境を作ることができます。

また地域を含めた他世代交流で子供たちの視野を広げ、地域の強みを生かした独自のカリキュラムを組み、9年間を通じた充実した教育で、子供たちの豊かな心を育みます。



学びの場である学校 施設を整備します

主な業務

- 教育委員会組織の体制整備
- 学校配置計画の推進
- 学校施設の整備促進

教育委員会 教育政策課
主査 兼田 義浩



充実した学校生活を送る機会を作ります

主な業務

- コミュニティ・スクールの充実
- 学力推進事業
- 小中一貫教育の推進

教育委員会 学校教育課
主任 早田 智博



空気なんか、笑顔で吹っ飛ばせ。

|||||||
動けない空気は
どこから来るのか

「いじめを見掛けたら止める」「周りに同調しない」「いじめられている子に声を掛ける」など、いじめをなくすための方法は、子供たちも今までの学びで知っているはずです。

しかし自分なりの答えを持つていても、子供たちが行動に移しにくいのは「そう思っているのは自分だけかもしれない」「行動しても誰にも賛同されなかったら、周りから浮いてしまう」という空気を、今までいろんな場所を感じてきたからではないでしょうか。

子供は、大人の言動の影響を無意識に受けています。思いやりなど子供に大切にしたいことは、まず大人が大切にしなければなりません。

|||||||
子供たちの勇気のために

行動宣言は、子供に一人でいじめと戦わせないために、私たち自身が行動することへの決意表明です。

親、友達、第三者の立場から、一人ができることは小さいかもしれませんが、しかしその行動が子供たちの

9月9日、麻里布中学校で体育祭が開催された。1年生女子による「ズッコケ承知の3人4脚」では、競技中に足ひもが何度も外れてしまった白組が最後になったが、声援はゴールまで続いた。



目に見えることで「自分は一人じゃない」と行動に移す勇気が湧いてきます。

そして子供たち自身で空気を変えられることができれば、いじめはきつと解決します。

「大丈夫？」

「もうやめよう」

「今まで本当にごめんなさい」

子供たちが勇気を出してそう言えるように、あなたも行動宣言しませんか。

.....

私の行動宣言

「みなさんが行動するきっかけになる広報活動をします」

いじめのない環境を作るため、この機会に自分ができることを考え、一緒に一歩踏み出しましょう。



広報戦略課 立川美紀